

教育目標

自ら考え主体的に学ぶ生徒
明るく思いやりのある生徒
健康でよく働く生徒

学校だより「岩瀬ヶ丘」



第 1 1 号

平成 2 9 年 7 月 1 3 日発行
須賀川市立第二中学校
☎ 7 5 - 2 9 1 0
発行責任者：校長 高崎則行

保護者の皆様と「いじめ」を考える

偶発的ないじめ・一過性のいじめにしっかり対応する (後編)

私がトモちゃんに「バルタン星人」と言ったのを真似して、男子生徒がトモちゃんを泣かしてしまいました。第 1 0 号では、その私の行為と男子生徒の言動について、親子で考えてほしいとお願いをしました。(第 1 0 号をまだお読みになっていない方は前・後編になっていますので、是非お読みください。)

それでは、続きです。

私は、該当する男子生徒を集めて、こう話をしました。

「オレは、トモちゃんに元気を出してほしくて『バルタン星人みたいになっちゃったね。』と言ったんだ。わかってくれるかな。そういう気持ちで言っても、もしトモちゃんを傷つけてしまったとしたら、すぐに精一杯謝らなくてはならなかった。

みんなはどうだい。トモちゃんを元気づけようとして言ったのかい？ トモちゃんが泣く前に、たぶん困ったような顔になったと思うんだが、それでもやめなかったのは楽しくなってしまったのかい？」

自分から名乗り出て私のところに来た生徒たちは、すでに悪いことをしたと深く反省していたようです。しかし、なぜ悪いのかをきちんと理解させたいと思って、こう話を続けました。

「(一つめのポイントは) 冗談を言うときに、明るい気持ちにさせたいと思って言うのか、いやな思いを味わわせてやろうと思って言うのか、悪意の有無を自分で判断するということ。(二つめのポイントは) 良かれと思って言ったときも、相手が期待どおりの反応をしているかどうか、よく見て判断することが大事なんだ。期待に反して相手を傷つけてしまったなら、まず精一杯謝ることだろ。」

生徒たちは、血相を変えて謝りに行きました。

その後、私は、帰りがけのトモちゃんに追いつき、「トモちゃん、ごめんね。」と謝りました。トモちゃんは、

「ううん。いいの。」

そう言ってくれました。翌日からは普段どおりのトモちゃんでした。

笑いというのは、落語でも漫才でも人をおとしめ、馬鹿にするという側面があります。しかし、冗談一つ言えない人間関係というのも望ましくありません。お互いに愉快になれる、真のユーモアは、言葉の使い手の英知によるものなのではないでしょうか。

また、一時的な感情の衝突に関しても、じっと我慢をしたり、距離を置いたりすることが、いちがいに最良の解決策とは言えないと思います。良好な関係を保つためには、気持ちや要求をどのように伝えればよいかを考える必要があります。

「偶発的ないじめ」、「一過性のいじめ」の両方に共通するのは、どのような状態になることを期待し、期待どおりになっているかをよく判断して行動し、それに責任を持つということだと考えます。

○何を期待して、そんな言動をしたのか

○それが、自分の期待どおりの結果なのか

この 2 点だけでも自分でよりよい判断を心がければ、コミュニケーションの力や社会力が育ち、いじめを生まない土壌がより強固になっていくものと考えますが、いかがでしょうか。



決意を生んだ陸上県大会

7月3日(月)～6日(木)にかけて、郡山市開成山陸上競技場で開催された福島県中体連陸上競技大会には、男子1、2年4×100Mリレーと女子共通100Mハードルの2種目に本校選手が参加しました。

男子リレーメンバーは、庄島唯人① 橋本祐亮① 深谷勝永② 松川侑矢②の4名です。彼らは、50秒08の自己ベストをマークするも予選で敗退してしまいました。しかし、来年の大会では、ベストリレーも1、2年のリレーも県大会で優勝を目指したいと大きな決意を持つにいたる貴重な経験になりました。

また、100Mハードルに出場した齋藤なお③は、この大会の記録が自己ベストに及ばなかったのは残念ですが、予選を通過し準決勝に進出しました。決勝には進めませんでした。準決勝のレース後、非常にさっぱりとした表情をしていました。彼女は、気持ちの区切りをつけて、これから東北総合体育大会山岳競技(ボルダリング)に出場します。

(注) 文中の敬称省略お許しください。○に数字は学年です。



授業参観へのご参加 ありがとうございました

7月7日(金)の授業参観・学年懇談会には、猛暑の中、大勢の保護者の皆さんにご参加いただき、本当にありがとうございました。

ご覧いただきましたように、どのクラスも生徒が落ち着いて学習に取り組んでおり、それぞれの心がけ次第でさらに学力向上が図れる状況であると考えております。

各学年の懇談会でも申し上げましたが、来る夏休みは、自分なりの目標を立て計画的に学習を進めるとともに、病気やけが、事故なく元気に2学期を迎えてほしいと思います。

以下、新校舎の授業風景です。



新しい調理室



新しい音楽室、保護者の皆さんの顔はマスクングしてしまいました。

ひと味違うぞ！ 二中生

7月10日(月)、県大会出場選手の壮行会を行いました。着任後初めての壮行会の時から感じていたことですが、本校の応援団はかなりカッコいい。高校の伝統ある応援団に匹敵するような豊富な応援スタイル、動きの切れ、表情には団員のプライドさえ感じます。

今回の壮行会では、「凱歌」という応援が披露されました。初めて見る演技だなあと思って確認したら、これは県大会以上の壮行会だけで披露される応援だそうです。このあたりにも、須二中の伝統の重みを感じることができます。

さらに、部ごとにエールが送られた後、一般生徒からアドリブで気合いの入った大きな声援が送られます。これも気持ちが盛り上がり素晴らしいなあと感じています。



この学校だよりは、本校HPからもご覧いただけます。